

週刊文春

7月7日号 定価400円



がんの名医が教える「悪い手術」と「いい手術」

■「胃がん 大腸がん 肺がんの8割は手術しないほうがいい」は根拠なし!
■「腹腔鏡手術が開腹手術より危険」というのもデタラメほか

「週刊現代」医療特集のウソ



(上)「週刊現代」7月2日号より(手術写真は全てイメージ)

「週刊現代」が五週続けて医療関係の大特集を組んでいる。読者の反響も大きいようだが、その見出しや記事の内容には首を傾げざるを得ない箇所もある。特集記事のなかのがん手術に関する部分を精査し、がんの名医たちに本当に受けていい手術と悪い手術を聞いた。

「医者に言われても断つたのはその通りです。しかし、手術するかどうかはがんの進行度や病状、年齢、体力、本人の希望などで個別に判断すべきであって、

「医者に言われても断つた

「記事の見出しへ、「胃がん、食道がん、大腸がん、肺がんの8割は手術をしないほうがいい」とあります。そのようなエビデンス(根拠)はどこにもありません。無駄な手術をしないほうがいいのはその通りです。しかし、手術するかどうかは

極端な例をあげて根拠のない数字を書かれると、患者さんはミスリードしかねません。怒りすら覚えます」東京都内の大学病院で胃がんや食道がんの手術を手がける消化器外科医は、「週刊現代」の記事を読んだ感想を、こう話してくれた。

今月に入って、医療特集記事を前面に打ち出した週刊現代が大きな反響を呼んでいる。

現在までに五号連続で特集が組まれた。しかも、第四弾と第五弾に至っては、週刊誌としては異例の「ぶち抜き28ページ」にも及ぶ、大特集となっている。

記事には、こんな煽情的な見出しが躍る。「やめたほうがいい! 医者に言われても受けはいけない手術」(同六月二十五日号)

ウラ取りできない記事ばかり書いていたため、抗議が殺到したといわれているが。

最終的にフジモリ大統領の武力による強行突入を見抜けなかつたし、なぜ分からなかったのかという問います。でもそこに至るまで、日本政府とペルーや公私混同ではないかなどと聞いたことはありません

政治部記者時代、休日の家族旅行などに、社のハイヤーを使つていて、舛添氏と同じ指摘もある。

「誰が舛添さんと一緒になんだよ。失礼だよ!」

そんなことあるわけないじゃない。僕がテレビに出るようになつたら、脅迫電話をかけてきたり、選挙に出たり、テレビに出たりするど、嫉妬に狂うバカタレがいるんです。生き方が違うから相手にはしませんけど

昭和天皇の容態については、日本テレビが最初にスクープしたと言われていますが。

「それは知らない、僕は。解釈の違ひじゃないですか。私たちが理解している限りは、共同通信の一報が

実際に悪いことをした舛添を叩くのは正しいけども、間違つたことをしている人間に對してこんなことをしていたら、本当に天の怒りが下りますよ」

「元記者として申し上げたくはないですか。What is purpose? 実際に悪いことをした舛添を叩くのは正しいけども、間違つたことをしている人間に對してこんなことをしていたら、本当に天の怒りが下りますよ」

「当たり前じゃないですか。公開しますけどよろしくですか。この誰が吉田さんの許可を得ないで映像を出そ

うとするのか。」

本当に恥ずかしいヤツだな。そんなことで給料をもらつてどうするんだ、お前は。人間が腐りかけているぞ。家に帰つて裸になつた自分を見てみろ!」

自分の意に沿わぬ質問が出るたび、小誌記者を激しく罵倒する。

たとえば共同通信を退社した後、三義総研に入社する際、政治家の紹介があつたのかと尋ねたときのことだつた。

「なに寝言、言つてんだよ。三義総研が防衛の専門家を探してたんだよ。お前ら本当に人間のクズだな。発想が貧困で、ワンパターンで人を貶めようとする、それ

があなたの仕事なんだ。恥ずかしいねえ。親に会わせる顔がないんじゃないのか。お前らの頭の中は一體、どうなつてんだよ」

そして、取材の最後に、謝意を述べると、なぜか次の

「お礼なんか言ってもらわなくて結構だ! 恥を知れ! 自分を取材しろ! 自分の心根を取材しろ!」

青山氏を知る関係者が語る。

「彼はラジオなどで、スキ

ー場で猛吹雪の中、ボード

用のジャンプ台から飛んで

左腰の骨五本を引きちぎる

ように骨折したが、その

後、スキーで滑つてホテル

に戻つたなどと、にわかに信じがたい話を語つてい

る。テレビコメンテーター

としては許されていたとし

ても、舛添氏同様、政治家

となつて、税金をもらう立

場になるのであれば、国民

の理解に耐えうる説明をし

なければなりません」

安倍首相、自ら出馬を口

説いたという青山氏。身体

検査は大丈夫ですよね。



青山繁晴(あояま しげはる)プロフィール
1952年兵庫県生まれ。慶應義塾大学卒。共同通信社記者、経済記者、政治記者を歴任。「昭和天皇の吐血」など歴史的スクープ連発。三義総研の研究員に転身後、日本の独立シンクタンクの創立総合研究所を創設し社長就任。海保、経産省、総務省などの公認多数を獲得で務め、東大、防衛省幹部研修、消防大学校、警視警備学校で講師を務める。「水曜アンカー」などテレビ、ラジオ出演、ベストセラー多数。趣味はモータースポーツ(A級ライセンス)、アルペンスキー、スキーバധダインピング(PADIライセンス)。ギター、映画など。東京都港区在住。

山繁晴 摂影 http://shiaoyama.com

——政治部記者時代、休日の家族旅行などに、社のハイヤーを使つていて、舛添氏と同じ指摘もある。

「誰が舛添さんと一緒になんだよ。失礼だよ!」

選挙ピラでもスクープをアピール

——安倍首相からの出馬要請は本当にあつたのか。

「六月六日月曜日(注・冒頭の出馬会見とは食い違うが本人発言ママ)の午後一時から、ビジネス誌の取材を受けていると、総理から電話が突然あつたんです。普段は私から一方的にかける

段は私が舛添さんと一緒になんだよ。失礼だよ!」

——福島第一原発には、どういった立場で?

「専門家で手を挙げたのが僕しかおらず、吉田所長か

——吉田所長には映像を公表すると伝えていたのか。

「当たり前じゃないですか。公開しますけどよろしくですか。この誰が吉田さんの許可を得ないで映像を出そ

うとするのか。」

本当に恥ずかしいヤツだな。そんなことで給料をもらつてどうするんだ、お前は。人間が腐りかけているぞ。家に帰つて裸になつた自分を見てみろ!」

自分の意に沿わぬ質問が出るたび、小誌記者を激しく罵倒する。

たとえば共同通信を退社した後、三義総研に入社する際、政治家の紹介があつたのかと尋ねたときのことだつた。

「なに寝言、言つてんだよ。三義総研が防衛の専門家を探してたんだよ。お前ら本当に人間のクズだな。発想が貧困で、ワンパターンで人を貶めようとする、それ

があなたの仕事なんだ。恥ずかしいねえ。親に会わせる顔がないんじゃないのか。お前らの頭の中は一

体、どうなつてんだよ」

そして、取材の最後に、謝意を述べると、なぜか次の

「お礼なんか言ってもらわなくて結構だ! 恥を知れ! 自分を取材しろ! 自分の心根を取材しろ!」

青山氏を知る関係者が語る。

「彼はラジオなどで、スキ

ー場で猛吹雪の中、ボード

用のジャンプ台から飛んで

左腰の骨五本を引きちぎる

ように骨折したが、その

後、スキーで滑つてホテル

に戻つたなどと、にわかに信じがたい話を語つてい

る。テレビコメンテーター

としては許されていたとし

ても、舛添氏同様、政治家

となつて、税金をもらう立

場になるのであれば、国民

の理解に耐えうる説明をし

なければなりません」

安倍首相、自ら出馬を口

説いたという青山氏。身体

検査は大丈夫ですよね。

——吉田所長には映像を公表すると伝えていたのか。

「当たり前じゃないですか。公開しますけどよろしくですか。この誰が吉田さんの許可を得ないで映像を出そ

うとするのか。」

本当に恥ずかしいヤツだな。そんなことで給料をもらつてどうするんだ、お前は。人間が腐りかけているぞ。家に帰つて裸になつた自分を見てみろ!」

自分の意に沿わぬ質問が出るたび、小誌記者を激しく罵倒する。

たとえば共同通信を退社した後、三義総研に入社する際、政治家の紹介があつたのかと尋ねたときのことだつた。

「なに寝言、言つてんだよ。三義総研が防衛の専門家を探してたんだよ。お前ら本当に人間のクズだな。発想が貧困で、ワンパターンで人を貶めようとする、それ

があなたの仕事なんだ。恥ずかしいねえ。親に会わせる顔がないんじゃないのか。お前らの頭の中は一

体、どうなつてんだよ」

そして、取材の最後に、謝意を述べると、なぜか次の

「お礼なんか言ってもらわなくて結構だ! 恥を知れ! 自分を取材しろ! 自分の心根を取材しろ!」

青山氏を知る関係者が語る。

「彼はラジオなどで、スキ

ー場で猛吹雪の中、ボード

用のジャンプ台から飛んで

左腰の骨五本を引きちぎる

ように骨折したが、その

後、スキーで滑つてホテル

に戻つたなどと、にわかに信じがたい話を語つてい

る。テレビコメンテーター

としては許されていたとし

ても、舛添氏同様、政治家

となつて、税金をもらう立

場になるのであれば、国民

の理解に耐えうる説明をし

なければなりません」

安倍首相、自ら出馬を口

説いたという青山氏。身体

検査は大丈夫ですよね。

——吉田所長には映像を公表すると伝えていたのか。

「当たり前じゃないですか。公開しますけどよろしくですか。この誰が吉田さんの許可を得ないで映像を出そ

うとするのか。」

本当に恥ずかしいヤツだな。そんなことで給料をもらつてどうするんだ、お前は。人間が腐りかけているぞ。家に帰つて裸になつた自分を見てみろ!」

自分の意に沿わぬ質問が出るたび、小誌記者を激しく罵倒する。

たとえば共同通信を退社した後、三義総研に入社する際、政治家の紹介があつたのかと尋ねたときのことだつた。

「なに寝言、言つてんだよ。三義総研が防衛の専門家を探してたんだよ。お前ら本当に人間のクズだな。発想が貧困で、ワンパターンで人を貶めようとする、それ

があなたの仕事なんだ。恥ずかしいねえ。親に会わせる顔がないんじゃないのか。お前らの頭の中は一

体、どうなつてんだよ」

そして、取材の最後に、謝意を述べると、なぜか次の

「お礼なんか言ってもらわなくて結構だ! 恥を知れ! 自分を取材しろ! 自分の心根を取材しろ!」

青山氏を知る関係者が語る。

「彼はラジオなどで、スキ

ー場で猛吹雪の中、ボード

用のジャンプ台から飛んで

左腰の骨五本を引きちぎる

ように骨折したが、その

後、スキーで滑つてホテル

に戻つたなどと、にわかに信じがたい話を語つてい

る。テレビコメンテーター

としては許されていたとし

ても、舛添氏同様、政治家

となつて、税金をもらう立

場になるのであれば、国民

の理解に耐えうる説明をし

なければなりません」

安倍首相、自ら出馬を口

説いたという青山氏。身体

検査は大丈夫ですよね。

——吉田所長には映像を公表すると伝えていたのか。

「当たり前じゃないですか。公開しますけどよろしくですか。この誰が吉田さんの許可を得ないで映像を出そ

うとするのか。」

本当に恥ずかしいヤツだな。そんなことで給料をもらつてどうするんだ、お前は。人間が腐りかけているぞ。家に帰つて裸になつた自分を見てみろ!」

自分の意に沿わぬ質問が出るたび、小誌記者を激しく罵倒する。

たとえば共同通信を退社した後、三義総研に入社する際、政治家の紹介があつたのかと尋ねたときのことだつた。

「なに寝言、言つてんだよ。三義総研が防衛の専門家を探してたんだよ。お前ら本当に人間のクズだな。発想が貧困で、ワンパターンで人を貶めようとする、それ

があなたの仕事なんだ。恥ずかしいねえ。親に会わせる顔がないんじゃないのか。お前らの頭の中は一

体、どうなつてんだよ」

そして、取材の最後に、謝意を述べると、なぜか次の

「お礼なんか言ってもらわなくて結構だ! 恥を知れ! 自分を取材しろ! 自分の心根を取材しろ!」

青山氏を知る関係者が語る。

「彼はラジオなどで、スキ

「縮小手術の中でも区域切除は高度な判断と技術が必要です。胸腔鏡にこだわる病院もありますが、これだと区域切除は難しい場合があると思います。ですか
ら、術後の一過性の問題である傷の大小ではなく、第一にがんをしつかり取り切

「要は、外科医として最も
高齢者にこそ合っている
手術だと思います」
ただし、実績やノウハウ
がまだ十分でない施設は、
無理をして腹腔鏡を使つた
り、進行がんに適応拡大し
たりする必要はないと福永
医師は言う。

せん。つまり、肝胆脾がんの腹腔鏡手術は大半が『実験的治療』なのです。その点をきちんと説明しないで、腹腔鏡手術があたかも安全であるかのように説明する施設では、手術を受けない方がいいでしよう」

そもそも、肝胆脾がんの



手術をやらざるを得ないケースがあります。ですから、『がん手術の八割は後悔する』というのは語弊があります。『手術を受けるなら、何に注意して、どこで受けるか』が大切なのです。それが書かれていないと、患者さんがお困りになると 思います』

では、週刊現代に登場した医師たちはどういう意図でコメントしたのか。

まず、腹腔鏡批判の『急先鋒』のような扱いになつて いる都立駒込病院名脇院長の森武生医師に聞くと、こんな答えが返ってきた。

「がんのステージが分かつ

て、患者も元気だという場合に、腹腔鏡などで手術を行つて、悪いことはないと思ひます。傷が小さいとか、ご飯を早く食べられる、退院が早くなるというメリットは確かにあるんですよ。

わてて手術しなくていい病変（非浸潤がん）も含まれることがわかつてきました。ですから、手術を勧められてもすぐには切る必要のあるがんか、それとも経過観察でいいか、ぜひ複数の専門医にセカンドオピニオニンを受けてください」

ると同時に、いかに肺活量を残せるかどうかを念頭に置いて、セカンドオピニオンを聞いてください。患者さんにとって肺機能は一生の問題なのです」

自信のある安全で確実な手術を患者さんにおすすめすべきなのです。自分には手術を患者さんにおすすめすればいい。患者さんのほう

患者が不利益を被らないために

わてて手術しなくていい病変（非浸潤がん）も含まれることがわかつてきまし。ですから、手術を勧められてもすぐに切る必要のあるがんか、それとも経過観察でいいか、ぜひ複数の専門医にセカンドオピニオンを受けてください」

また、早期肺がんの手術は片肺の三分の一または二分の一を切り取る「肺葉切除」が標準治療だが、切除する肺の量にともなって肺活量が落ち、術後のQOL（生活の質）が悪くなったり、新たな肺がんが発生した場合の追加手術がしづらくなる。そこで、より小さな範囲を切り取る区域切除や楔状切除といった「縮小

「手術」が徐々に行われるようになつた。岡田医師が付言する。

「縮小手術の中でも区域切除は高度な判断と技術が必要です。胸腔鏡にこだわる

病院もありますが、これだと区域切除は難しい場合があると思います。ですか
ら、術後の一過性の問題で
ある傷の大小ではなく、第
一にがんをしつかり取り切

手術だと出来る、他の臓器をちゃんと見られるか、がんの浸潤範囲を手で触つて分かるか、ということに代わるものではないんじやないか、という気がするので、私は腹腔鏡手術をほどんどやったことがありません。一方、「週刊現代」七月二日号で「内視鏡のモニターでは見えづらく、誤って傷つけてしまう可能性が高いのです」とコメントしている浜松労災病院院長の井上滋樹医師に聞くと、こう語った。

『内視鏡のモニターでは見えづらく』とは私は言つていません。カメラをしつかり入れているので、モニターでも意外と細かいところまで見られます。目の届かないところまで、カメラ

ていません。カメラをしつかり入れているので、モニターでも意外と細かいところまで見られます。目の届かないところまで、カメラ「腹腔鏡手術に懷疑的」として登場している昭和大学横浜市北部病院循環器センター教授で心臓外科医の南淵明宏医師はこう言う。

であれば見えるということもありますし、開腹手術よりも視界が良い場合はいくらかあります。記事になる前にコメントは（週刊現代の編集部に）校正して送ったのですが……。

腹腔鏡手術はいいところがたくさんあり、間違いなく増えていきます。すでに胃と大腸は腹腔鏡が主流になっていますし、手術が難しい肝臓は少し遅れていますが、方向性は同じです。ただ、腹腔鏡手術が開腹手術に比べてとくにすぐれているということではないので、安全性を最優先するところが大切です。

記事は読んでいませんが、「8割は手術をしないほうがいい」というタイトルは私たち医師からするととんでもない話です。

ですが、まさかあの部分を
使われるとは思わなか
た。私は心臓外科医でな
り、腹腔鏡手術の専門家
はありませんから。手違
で事前に掲載されるコメ
トを確認できなかつたの
が私の落ち度かもしれません
が、腹腔鏡を専門にされて
いる百戦錬磨の先生方はよ
そかしお気に障られたこと
でしょう。どんな治療方法
もネガティブな面もあるに
面、ポジティブなことだ
てもちろんあるわけです」
「週刊現代」編集部にも聖
材を申し込むと、次のように
に文書で回答した。

がはたして患者の人生の中で適切なのかどうかという問題を検証し続けております。その根拠については本誌をお読みください」と、ただ、記事を丹念に読んでも医学的根拠らしきものは見当たらない。

また、腹腔鏡手術のリスクをことさら強調していることについてはこう答えた。「本誌は、開腹手術と比較して腹腔鏡手術が危険であるとは主張しておりません。現在、安全、簡単と礼賛される腹腔鏡手術にもりスクは伴うことを読者に伝えるのはとても大切なことだと考えています」

では、こうした報道に惑わされることなく、実際に後悔のない「いい手術」を受けるには、どうすればいいのだろうか。

たとえば、肺がんの手術に関して、広島大学腫瘍外科教授の岡田守人医師はこう話す。

「近年、CT検診の普及で早期肺がんが多く見つかるようになりました。その中で、実はすぐには大きくならず転移もしないので、あ

自信のある安全で確実な手術を患者さんにおすすめすべきなのです。自分には手術に負えないと思うならそれができる施設を紹介すればいい。患者さんのほう

患者が不利益を

肝胆脾がん手術の場合は、多少事情が違うところもある。名古屋大学大学院腫瘍外科教授の棚野正人医師はこう話す。

「この領域で腹腔鏡手術が比較的安全に行えるのは肝がんや転移性肝がんに対する肝の部分切除と外側区域切除、あるいは脾がんに対する脾尾部切除のみです。肝臓を大きく取る肝葉切除

も、あわてて手術するのではなく、ぜひホームページなどで症例数や合併症率といたデータを確認して、納得して手術を受けられる施設を選んでください」

うにしてください。命がかかる病気ですから、病院選びを妥協してはいけないのです」(郷野医師)

自分たちの主張を正当化するため、特定の治療の危険性をことさらによく誇張して批判するのは正しくない。患者が不利益を被らないためにも、どんな手術がダメで、どんな手術を受けるべきなのか、それをフェアに伝えることが、メディアの役割ではないだろうか。

次号以降、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝がん(肝胆脾がん)の五大がんについて、我々が本当に知るべき「がん手術の真実」をより詳しくお伝えし

ですが、まさかあの部分を
使われるとは思わなか
た。私は心臓外科医でな
り、腹腔鏡手術の専門家
はありませんから。手違
で事前に掲載されるコメ
トを確認できなかったの
は私の落ち度かもしれません
が、腹腔鏡を専門にされて
いる百戦錬磨の先生方はよ
そかしお気に障られたこと
でしょう。どんな治療方針
もネガティブな面もあるに
面、ポジティブなことだっ
てももちろんあるわけです」
「週刊現代」編集部にも要
材を申し込むと、次のよ
うに文書で回答した。

がはたして患者の人生の中で適切なのかどうかという問題を検証し続けております。その根拠については本誌をお読みください」と、ただ、記事を丹念に読んでも医学的根拠らしきものは見当たらない。

また、腹腔鏡手術のリスクをことさら強調していることについてはこう答えた。「本誌は、開腹手術と比較して腹腔鏡手術が危険であるとは主張しておりません。現在、安全、簡単と礼賛される腹腔鏡手術にもりスクは伴うことを読者に伝えるのはとても大切なことだと考えています」

では、こうした報道に惑わされることなく、実際に後悔のない「いい手術」を受けるには、どうすればいいのだろうか。

たとえば、肺がんの手術に関して、広島大学腫瘍外科教授の岡田守人医師はこう話す。

「近年、CT検診の普及で早期肺がんが多く見つかるようになりました。その中で、実はすぐには大きくならず転移もしないので、あ